



LIBRARIES

UNIVERSITY OF WISCONSIN-MADISON

邊要分界圖考 = Henyō bunkai zukō. [vol. 5] 1804

Kondō Morishige, 1771-1829

[s.l.]: [s.n.], 1804

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

邊要分界圖考

五

世界圖志



邊要分界圖考卷之五

考證

蝦夷人山丹人曰カラフト地ヨリサニタニ
地ニ至リサニタニ地ヨリ滿州キチニ至リ
イチヨボツトラ経テスニクタイニ出キリ
ウララ過テボチヨニ至ル蝦夷人山丹人毎
歳キチニ於テ滿州ト交易ヲナス、又ニ
クタイイホチヨニ至ルモノ有ト守重按スル

近

藤

守重

輯



ニスニクタイハ即寧古塔ギリウラハ即吉

林烏喇ボチヨハ即船廠ナリ

韃国漂流記ニ云松前西在突将村孫太郎安

次郎重兵衛寛政七年六月韃地へ漂著九年

二月唐土ヨリ長崎へ帰国其口供ニ云初六

月西地ヲコシリ島へ往キ昆布ヲ取ントテ

小舟漂流シ六七日海上ニ漂ヒ漸々山ヲ見

出シ乗附ケ舟ハ岩ニテタリテ破船ス初テ

海濱ニ上陸ス此海濱ノコト此度護送ノ唐

韃ノ地ノ由乍浦迄ノ送ニ状ニ載タル由云此

唐人工ノ尋ハ長崎役ニテ護送ノ唐人工

問シ 下倣之二日ホトモ濱梨子昆布ヲ食シ飢
也 交キ濱ツタヒニ人家ヲ尋子往シニ民家
十軒計モアルベキ所エ出タリ此処ノ人ハ
百會ニ髮ヲ残シ筒袖ノ縐半ノ如キモノト
股引ノエルクモノヲ著セリ則唐人氏ハ漂
民氏日本ト書キテ見セタル氏詞通セス夫
ヨリ家ヘ入レ粟飯ヲ喫セシメ皮ニテ作り
シ衣類ヲ与ヘ薪水ノ手傳シテ日ヲ送り日
本ヘ歸リタキ一度ハ歎キケルニ十月初同
所出立一夜泊ニテ家數百軒計アル所へ着

ス 此 不知ノ名唐人ヘ問 此 一ノ唐人ハ鳥髪ニ

テ後口ヘ下ケ衣類ハ皮ニテ製シ女ハ耳ハ

真鍮ノ環ヲ穿キタリ 此 夏唐人ニ問フニ韃

キヤ彼ノ地ノ丁習年三月漂民凡小舟ニ乗

知力タキ由云 西ニ溯リ四月末塩谷ノ有ニハ着ス役人

ト思シキ者来リ居ル夫ヨリ七日路ホトニ

テホニチヨント云處エ着ス 此 ホニチヨニ

フニ韃国船廠ノ地ナルベク韃音 此 一ニテ

ニテハボニチヨント云申答フ 豪富ノ商家エ逗留サセ番人ヲ附テヲク高

家ニ馬十ト多ク銅ヒタリ五月初漂民ヲ馬

ニ乗セ役人ト見ヘシ唐人二人僕二人馬ニ
乗り附添ヒ出立途中ニテ又役人ニ引渡シ
夫ヨリノゴタイト云ハ着シ役人ニハ連レ
出タリ此ノゴタイノ事唐人ハ問フニハ
相当一切ノ府ナルヘク將軍ハ唐國ノ總督ニ
門ヲ入り役人一人外ニ五六人並居此役人
人ハ問フニ守備都司ノ類ヒ漂民始末ヲ查
テ武役ヲ司ルモ由云
問スルヤウスナレモ詞通セスソレヨリニ
丁程ワキノ佛寺ヘ苗メ置キ番人ヲ附ケ日
日米飯野菜魚肉等食シメ夫ヨリ又役人ニ

人ヨ此役人ノ事唐人ハ問フニ寧古塔ノ將軍
ヲ附送ルナル云盜賊并諸改方等司ル役人
ヘシトイフ僕三人連レ漂民ヲ馬ニ乗セ
出立ギリント云ハ着ス此キリシノ唐
吉林ノ地方ナルヘシギ家數千軒余モアリ
漂民ヲ役ニハ連レ行ク此役ニハ大門練堀
モアリ門ヲ入り三丁程ユキテ廳へ出ス此役
而ノ一唐人ニ問フニ吉林高平ニ役人居
將軍ノ而ナルヘシト云フ高平ニ役人居
テ左右ニ又役人十四五人モ並居此役人ノ
問フニ吉林ノ將何レモ立派ナル衣類ヲ着
軍ナルハシト云何レモ立派ナル衣類ヲ着
入漂民へ査問スレモ詞通セスノコタイヨ

リ附キ来リシ役人ハ此ヨリ飯ル漂民ヲ長
屋へ置キ衣食ヲ与フ八月初同ニ出立ケク
リト云へ着ス宿屋ノヤウナルニへ置ク
クベリノ一唐人ニ問フニケクリトハ韃音ナ
ルベキヤ漂民トモ作浦迄送り来ル在日ヲ北
以テ考フハ極メテ北京ノ官舎ナルベシト北
京ナレハ宿屋ハ四訣官ノ官舎ナルベシト北
答九月初川船へ乗りソシウト云ニへ着ス
此ノミウノ一唐人ニ問フ十一月初又役人ト
フニ蘇州ノ一唐人ニ問フ十一月初又役人ト
同夕乗船へシシヤウト云ニへ着ス此ハウシ
ノ一唐人へ問フニ抗翌年正月乍浦へ着船
州ノコトノ由云フ
唐人大勢出迎セ銅鑼ヲ鳴スソシウノ役人

ヨリ此所ノ役人へ引渡ス此乍浦ノ唐人
浙江省嘉興府平湖縣ノ内ニテ唐船通商ノ
津口ナリ都テ官船着岸ノ片ハ銅鑼ヲ鳴シ
相迎フル乍浦ノ役人ヨリ日本通商ノ荷
主へ引渡ス番人通詞附ケヲキ此唐人へ
ノ海防官ヨリ日本通商ノ荷主へ令シテ日
本護送マテ船宿謝順興力宅へ引ケサセ
通詞ハ日本へ度々往來セ三月五日役人
王兆竜ヲ附ケキ由答フ二月五日役人
ノ指揮ニテ乍浦ヨリ出船十八日長崎ニ歸
著ス守重云右漂流民經過ノ道程吉林寧古塔
地名ヲ取ル今考ベカラス姑ク其
ノミナリ

唐乘鈞カ人參攷云船廠去鳳皇城三四千里

其地多巨木屋宇道路橋梁皆巨木而達相傳
係開海禁時曾於是地造洋船出洋故名船廠
其處二百里内外而產參較鳳皇城稍堅實且
經潤可觀臺貨者寧古臺而出之貨也地處極
北去船廠五千余里地極厚天極寒鳳皇城貨
雖地道而出一大畧早出白秀體鬆而瘦長
者皆名曰鳳皇城守重云右人參考八以地參
三且船廠寧古臺ノ名アルヲ以テ採録スリ
ノ洋船ヲ造ルト云ハ恐クハ混同黒竜江ヨリ
ニ此地ニテ大木ヲ出セハ江ヨリ
川下ケスルヨリ外ハナシニ江ヨリ
カラフトサカリニ迎テハ出ル
ナラフス恐クハ撰テナラニ

韃靼漂流記ニ云寛文十三年

清ノ康熙十年ニ當ル越

前国三国浦新保村ノ竹内藤右工門同子藤
藏船二艘国田吉右工門船一艘都合三艘五
十八人乗ニテ松前へ通商ノ為メ出船海上
大風ニ逢ヒ韃靼国工漂着夫ヨリ韃国之都
唐ノ北京へ往キ朝鮮国へ送ラレ對州へ歸
国ス其漂記ノ畧ニ云寛文五癸丑四月三国
ノ浦出船ヘクラノ島ヨリニ能ア登リ内佐渡ノ
国へ着五月十日同ニ出船大風ニ逢ヒ十五
日目ニ何国トモ知ラサル地方へ漂着日本

へ乗歸ルベキトテ舟拵セシニ又風起リテ
五十里許ニ西へ著沖へ舟搦リセシニ異国
人トモ小舩ニテ出来リケルニ手招シテ
舟へ乗セ飯酒ヲ与ヘケレハ頓テ人參三把
持来リ料理鍋ト交易ス此物多ク有ヤト手
語スルニ彼方ノ山ニ影シトテ指示ス漂民
トモ松前へ往モ通商ノ為メ何方へ往モ交
易ナレハ人參ヲ取ヘシト相謀リテ異国人
へハ米ヲ与フベキニヨリテ案内スヘシト
相約シ其翌日舟へ八十四人残シ置キ四十

人ホト上陸シテ山へ登リ十町計モ往キテ
萱原ノ山ニ入ルカヤウノ處ニ人參ハ有ル
マシト云トコロニ萱原少メキ異国人ト
モ日本人ヲ取籠メ弓ニテ射殺セリ日本人
方、ハ遁ケ散シ萱原ノ中ニ十三人隠レ居
タルヲ見出シ搦メ捕ヘラル山ニハ人數五
百計モアルヘキト思ハル夫ヨリ船へ乗ウ
ツリテ船中ノ人ヲ殺シ諸道具ヲ奪ヒ去ル
船中二人助命ス則国田吉右衛門竹内藤藏
ナルモノ、草履取り小者一人ナリ船へハ

明松ヲ投ケ入焼キ弃テ都合十六人ヲ一ニ置キ其後一人二人ツ、村落ノアルニヘ連行キ畠作ノ手傳トス其所ヨリ五日路程先ノ由役人來リ何莫カ吟味シテ歸リ二十日ホト過テ役人十人余リ參リ右ノニノ者ノ内ヲ三人撰テ出シ引連レ日本ノ者トモヲ七馬ニ乗セ三十五日目ニ大キニ廣キニヘ着ス此ニ後ニ関ニ韃靼ノ都ノ由奉行ニト覺シキニヘ連レ出テ種、吟味アリテ漂人トモ、仕形真似ヲシテ漂流ノ由訴ヘ三

人ノ者ハ日本人ノ盗ニ来ルヲ殺セリト訴
フ其後三人ヲ引出シ着物ヲヌガセウツフ
シニフサセ大竹ヲ割タルモノヲ以テ屍ト
腰トヲ五十宛放キタリ夫ヨリハ日本漂人
ヲ厚ク撫育セラル韃靼ノ都ニ二十日余モ
逗留シソノ後鞍置馬十五匹へ漂人ヲ乗セ
大名トモ云ベキ人ニ日本人ヲ二人三人ツ
ツウケ取り召連十月末大明ノ北京へ三十
四五日ニテ着ス韃靼ハ粟飯ニテ米ハ一切
ニ無シ

大明ノ北京ニハ飲食衣服トモ厚ク手當アリテ毎度日本ノ謠小歌十トヲ望マレケリ五月五日大明ノ礼日ヲ心掛ケ漂人凡一同奉行所へ出日本畝国ノ事ヲ願ヒシニ聞スミアリテ羊皮ノ着物下着皮踏マテモ与ヘラレ酒食澤山贈ラレ同廿一日馬十五匹引セ武官ト覺シキ人迎ニ来リ五瓜ノ竜ノ紋付タル大旗二本白キ小旗八本赤小旗四本笠鉾三本棒二本諸夏唐ノ馳走ノ礼持タル人百人討附漆ニ朝鮮国ノ境マテ送り届ケ

ラル朝鮮ノ境目ニ八十日ニメ翌年二月九
日着ス夫ヨリ朝鮮人ウケ取二百人計又大
明ヨリ送り人ノ内十人附添ヒ忝ル朝鮮ニ
テモ厚ク手當アリテ衣服飲食相贈ラレ成
年正月七日朝鮮ノ都ヲ出テシンサツト云
大名ノ館ヘ招カレ日本ノ音曲ヲ歌フ十五
人ノ内一人ハ江戸モノニテ小歌モヨク歌
ヒシユヘ唐人トモ殊ニ賞美セリ廿一日ト
ウ子ニキト云ハ着此ニテ宗對馬守家
臣古川伊右エ門ヘ逢三月七日對州鰯浦ヘ

歸船六月十六日大坂へ歸国ス

韃靼国バ越前国ヨリ乾ノ方ニ當ルベシ
韃靼へ漂着ノ始ハ言語通セサレ尾後ニハ
互ニ聞馴レ大抵合点セリ

韃靼ニテ日本ノ者ヲ叙セシ所ヨリ同国ノ
都マテハ三十五六日路ノ間田ハ一切ニ十
ク粟稗雜穀ハ日本ニ異ナルヲナシ山路多
ク大木多シ松ハ五葉ニテ深山ノ外ハ萱原
野山ニテ山ノ間ニ廣キニモアリ其ニヨリ
五日程往々ハ往還ノ道モアリ萱原ヲ分ケ

通り道筋ニ宿駅ナリ大方ハ山ニ泊リ食物
ハ馬ニ附ケテ泊リミニテ賄フ也都へ着ス
ヘキ三日路程前ヨリ道筋モ見ヘ民家モ所
所ニ在リ人ノ形ハ日本ヨリ大ニテ上下ト
モニ頭ヲ剃テテヘニ一寸四方ホト丸ク
毛ヲ残シ長マトシテ三ツニ組ミヲキ髪ハ
其儘ヲキテ下髪斗リ剃ルナリ女ノ形ハ髪
毛ヲ真中ヨリ両方エニツニ分ケ前後引廻
シハ千巻ノヤウニスル也
上下トモ頭ニカフリモノヲス冬ハ帽子ヲ

九クシテ縁ヲ取ル大名ハトツヒト云皮ニ
テ作ル色々ノ総ヲ附ケテ縁ハ狐ノ皮其外
毛類ニテ附ル^妻夏ハ上下共ニ笠ヲ著ス此笠
形モ大サモ帽子ノ如シ則日本ニテ云唐人
笠ナリ着類ハ貴賤上下其貧富ニヨリテ美
惡ハ替レ凡其制ハ皆同シ是ハ漂人トモ持
叅セリ袖ハイカニモ細ク手ノ甲迄カ、リ
長ク脛ヨリ裾廣ナリ
韃靼ノ都ハ日本道二里四方ホトアリ其中
ニ王ノ居城アリ角、ニ櫓モアリ二里四方

ホドノ内ニ屋形作り町屋モアリ屋形ハ大
キク作り丸柱ニテ瓦ハ藥ヲカケ五色ニ光
ル町屋モノコラス瓦葺ナリ皆切石ナリ

韃靼国王ノ名チヤウテント云ヒ年八歳ノ

由日本ノ者トモ北京ニ居ル返ニ北京ニ引

越アリ守重按^ニ聖祖康熙九年壬寅ハ年八歳ニ

年ニ當ル此漂人ハ寛文十二年癸丑ニメ康

熙十二年ニアタル漂人傳列ノ誤リアラシ

韃靼臣下ノ夏キウワニズハトロハニズハ

イソンスホウワニス右四人ノ名ノミ関覚

ヘタリワニズトハ王ノ代リニ仕置スル人

ヲ云此外歴、ノ人多シ仕置ハ八人工命セ
ラル、由キウワンスハ王ノ伯父ニテ威權
最モ強シ歴、モ直ニ物言フ、モナリカヌ
ルヨシ市中ヲ通行セラル、ヲ見シニ町人
其外モ頭ヲ地ニ付ケ平伏ス日本ノ者ヲ不
便ナリトテ度、呼出ソシ懇ナルトモナ
リ右ノハトロワズト云ハキウワズノ
兄ニテ国王ノ伯父ナレ共暴人エヘ致夏ニ
ハ与ラズ年ハ五十計ニ見ヘイモ顔ニテフ
トクタクマシ手大剛ノ人ナリ合戦ノ恥モ

遂く後レテ取りシ一ナク城ヲ攻ルニモ比
類ナキ勦ノミアリ大明ト韃靼ト合戦ノ由
モ度、手柄アリシ内ニ何地ヤラン城ヲ攻
ラレシ片降参ニ出シ者ヲ国王ノ令ヲ用ヒ
スシテ數萬人ヲ殺シタリ此罪ニテ知行ノ
内何程ヤラン上ケラレシ由シイワンス是
ハキウワンスノ弟ニテ年三十三歳学者ノ
由シ其外タタス。トフセイクハ杯ト云
人、モ歴々ニテ軍功アリシ人、ノ由シ
ホウワンス鷹野ニ出ラレケルヲ見シニ大

鷹千据ツ、出ル_一ノ由ニ供廻リモ夥ニキ
人数ナリ是ニテ大唐ノ廣大ナルが思ハル
ル也

アントテイト云大名エ往キニ馬ヲ乗ル
ヲ見ル前後左右自由自在ナル_一也弓モ二
十間程先ノ的ヲ射ルニ中フスト云_一ナシ
其射ニ矢ヲ又馬上ニテ取りタリ馬ハ至テ
巧ナリ
法度ハ萬々作法明カニシテ上下トモニ慈
悲深ク正直ニシテ偽リ_一ナク金銀ヲ取_一子

ヲシ置テモ盗ムモノナクイカニモイニキ
ナリ日本人ヲ殺シタルハ遠国辺鄙ニハ
法度モ聞クケサルヤトテ嚴シク穿鑿ノヤ
ウスニテ甚立腹ノ由ニ聞ヘタリ

主人ト下人トノ作法親ト子トノ如ク上下
甚親シム下人ハ皆婦妻ツレ合夫婦トモニ
扶持スルナリ日本ノ如ク出替リスルナ
シ五人十人ニ三十人ノヲ仕フモノモ皆如
是。

上下トモニ刀ヲ帶スルナシ一尺五六寸

或ハ二尺ホドノ服指ノヤウナルモノヲ下
テ鞆ノヤウニシテ腰ニ下ケ拵ハ敷鞆ニテ
漆ヲ塗り鐸モカクル也

大名他行ノ取ハ長柄ノ輿ニ乘リ幡鉾ヲ持
タスル也鎗長刀ハ持タス武道具ハ弓ヲ弟
一トス弓ノ長サ四尺ホトモアリ

具足ハ日本ノサ子帷子ノ如ク鉄ヲサ子ニ
拵ヘ透間ナク縫付ル馬ハ至テヨク仕込ニ
山坂難ニモ自由自在ニ乗ラル、也朝ヨリ
晩迄ツヨク乘リテモ草モ水モ飼ハス夜馬

ヲ休メル片ハ粟カラヲ細カニ切テ大豆ニ
交セ銅ナリ馬ノ鞞丸ヲ拔去ル也荷鞍ハ一
切ニ無ク裸脊ニテ荷物ヲ附クル也
軍法ノ事ハ先ヨリ書付有之常々心掛ケ
賞罰至テ嚴明ナリ韃韃工往キシ時ハ大明
ト合戦以後ノトエハ韃人ヨリ其咄アリシ
也

奉行人トニ日本人エ云シハ日本ハ義理モ
堅ク武モ強ク慈悲モアル由

韃人老若トモニ寒氣ニハ少モ痛マズ着モ

ノハ肌著一ツヲ定テ著シ夫ニ薄キ綿入物
一ツ上著ニモ皮ノ著モノ一ツ毛ノアル方
ヲ裏ニシテ表ハ紗綾緞子等ナリ料理ノ仕
揉ハ魚鳥牛羊等也酒ハ焼酒ニテ韃ニテハ
粟ニテ造リ北京ニテハ米ニテ作ル

夏ハ暑ハ韃韃北京同シニテ日本ノ夏ニ
カハルナシ冬ハ日本ヨリハ一倍寒シ

韃韃ノ都ヨリ海辺マテ三日路アル由ニ魚
類ハ一切ニナシ

韃韃ノ都ヨリ北京迄道中平カニ道ノ幅ハ

七八間ツキニヨリ造リテアリ三十五六日
路ノ間ニ只一日海辺ヲ通ル也小川アレ尾
舟渡ホドノ川ハナシ北京ヨリ少シ前ノ方
ニセクチヨト云ハ二町ホトノ川アリ毎渡
ナリ道中ニ宿、モアリ道筋ノ服ニ大名ノ
居城イカホドモアリ日本ノ者トモ北京ニ
往キシハ韃靼ヨリ引越ノ男女三十五六日
路ホトノ間引モ切ラス通行セシ也
韃靼ト大明トノ国境ニ石垣ヲ築キ萬里有
之由シ高サ十二三間ニ見ユル石ニテハ無

ク瓦様ナル物ニテ高サ三寸四寸ニ重子テ
漆喰詰ニシテ堅ク滑ラカニ焼物ニ菜ヲカ
ケタル如ク少シモ損シ見ヘズ往来ノ所ハ
此石垣ヲ丸ククリヌキテ門矢倉ノ立北丸
キニモ菜ヲカケ瓜モカ、ヲヌホトニ大夫
ナリ

大明ノ北京ノ城ハ日本道五六里四方程也
口ニハ石垣ヲ丸ククリ板キ上ニ門櫓ヲ立
廻リニ石火矢ヲ仕掛ケアリ六里四方ノ真
中ニ二十丁四方程ニ堀ヲ堀廻シ其中ニ宮

殿多ク見エ瓦ハ五色ノ藥ヲカケ光ル也四
方ニ門四ツアリ大手ノ門ニハ大キナル石
橋五ツ掛ケ欄干ニ竜ヲ彫ル外ノ門ニハ石
橋三ツ宛掛ル六里四方ホドノ中屋形作り
ノ家透間ナク日本ノ大キナル堂寺ノ如ク
丸柱ニテ瓦ハ五色ノ茶ヲ掛ケ板敷ハナク
皆切石ナリ屋敷ノ外ト構ニハ漆喰誥ノ石
垣也町屋モミナ瓦葺ニテ高物沢山ニ見エ
其富貴ナルヲ韃靼ノ都トハ大ニ異也
北京ヨリ海辺迄ハ五六日路モ有由生魚ハ

一切ニナシ鯉鮒川魚類ハ沃山ナリ
北京ヨリ南京工ノ道ハ急キナレハ三十日
テハ往ヘシト云此間ニ大川アルヨシ南京
モ韃靼ニ切取り討手ノ軍勢モ北京工歸リ
但一頭ハ南京ニ残リシ由シ其後南京ノ者
トモ北京ニ礼ニ出ルヲ見及タリ南京人モ
皆頭ヲ剃リ韃靼ノ如クニナレリ
韃靼ニモ大明ニモ寺ハ多クアリ何レノ寺
ニモ經ヲ佛前ニ影ク積ニ置ナリ
北京ヨリ朝鮮ヲ境迄ノ道中ニ幅二三丁ノ

川アリ川上ヲ人馬トモニ步渡リニニ夏ハ
舟ニテ越スナリ国境ヨリ朝鮮マテノ間大
川アリ是モ川上ヲ渡ルベシ朝鮮国ノ内ハ
大方山路ニテ廣キハ稀ナリ以上韃靼漂
流ノ紀変モ
トヨリ漂人ノ語ニシテ深ク信ズルニ是ヲ
ス又筆記スル者ノ文飾モアルベシ然レモ
本邦合ステ韃国ノ変ヲ記シ且其畧ヲ茲ニ載
スト符合スルモノ有ルヲ以テ其畧ヲ茲ニ載

日本紀云

欽明天皇五年

異朝東魏ノ孝靜
帝武定二年ニ當

十二月越国

言於仇渡島北

三ナバ部之碕角有

肅慎人乘一船舶而淹留春夏捕魚充食彼鳥

之人言非人也。亦言鬼魅不敢近之云。於是
肅慎人移就瀨浦、神巖。忌人不敢近。渴飲其
水死者半骨。積於巖岬。俗呼肅慎隈也。

齊明天皇四年

唐高宗顯慶三年 = 當此

越國守阿部引田

臣比羅夫討肅慎。獻上熊二、羆皮七十枚。五年

阿部臣率船師一百八十艘討蝦夷國。

或本云阿部引

田臣比羅夫與肅慎戰而
歸。獻虜四十九人。

六年三月遣阿部臣率船師二百艘伐肅慎國。

阿陪臣以陞奧蝦夷令乘己船到大河側。於是

渡島蝦夷一千餘屯聚海畔向河而營。中二

人進而急叫曰肅慎船師多來將殺我等之故
願欲濟河而仕官矣阿部臣遣船喚至兩箇蝦
夷問賊隱不與其船數兩箇蝦夷使指隱不曰
船二十余艘即遣使喚而不肯來阿部臣乃積
綵帛兵鐵等於海畔而令貪嗜肅慎乃陳船師
繫羽於木竿而為旗齊掉近來停於淺處從一
船裏出二老翁迴行熟視不積線帛等物便換
著軍衫合提布一端乘船還去俄而老翁更來
脫置換衫并置提布乘船而退阿部臣遣數船
便喚不肯來復於弊路弁鳥食、頃乞和遂不

肯聽

弊賂并渡島之別也

據己柵戰于貳能登臣馬身マムタ龜カメ

為敵被殺猶戰未倦之間賊被殺己妻子云云

阿部引田臣献夷五十余人於石上池边作湏

彌山高如廟塔以饗肅慎四十七人

續紀云

元正天皇養老四年

唐玄宗開元八年

郡王大欽茂即位ヨリ二年也

正月丙子遣渡島

今ノ松津輕

津司從七位上諸君鞍男等六人於靺鞨国觀

其風俗

聖武天皇神龜四年

唐玄宗開元十五年十二月丁亥

渤海郡王使高齋德等八人京丙申遣使賜高

齊德等衣服冠履渤海郡者舊高麗國也

淡海朝廷七年冬十月唐將李勣伐滅高麗按

天智紀七年冬十月大唐大將軍英公折滅高麗高麗仲年王初建國時欲治千歲也母夫人

云若善治國可得也但當有七百年之治也今此國亡者當在七百年之末也十一月辛巳朔

賜新羅王絹五十匹其後朝貢久絕矣至是渤綿五百斤革一百枚

海郡王遣寧遠將軍高仁義等二十四人朝聘

而著蝦夷境仁義以下十六人並被殺害首領

齊德等八人僅免死而來五年春正月甲寅天

皇卯中宮高齊德等上其王書並方物其詞曰

武藝啓山河異域國上不同延聽風猷但增欣

仰伏惟大王天朝受命日本開基夾業重光本
枝百世武藝忝當列國濫總諸蕃復高麗之舊
居有扶餘之遺俗但以天崖路阻海漢悠、音
耗未通吉凶絕問親仁結援庶叶前經通使聘
隣始于今日謹遣寧遠將軍郎將高仁義游將
軍杲毅都尉德周別將舍那婁二十四人賁狀
并附貂皮玉百張奉送上宜雖賤用表獻芹之
誠皮幣非珍慚掩口之誚生理有限披膽未期
貶嗣音微永敦隣好於是高齊德等八人並授
正六位上賜當色服仍宴五位已上及高齊德

等賜大射及雅樂寮之樂夏四月壬午齊德等
賜絲帛綾綿有差仍賜其王璽書曰 天皇

敬問渤海郡王省啓其知恢復舊懷聿脩畧好
朕以嘉之宜佩義懷仁監撫有境滄波雖隔不
斷往來便因首領高齊德等還次付書并信物
絲帛一十匹綾一十匹絹二十匹絲一百約綿
二百屯仍差送便發遣使御漸熱想平安好

守重曰神龜以後渤海便幣ノ往來スルノ
因吏書ヲ絶ス日本紀畧日本後紀扶桑畧
記類聚國史等ニ載スル所ノ船能
登少羽蝦夷越前但馬長門肥後等ノ國能
工漂著タル比ト見ヘタリ今其地理
ニテ涉スルモノ一ニ抄録ス

二 元 涉 ス ル モ ノ 一 ニ ヲ 抄 録 ス

天平十一年

唐開元二十七年ニ當ル其王欽茂即位ヨリ二十一年ナリ忽州

ハ即チ忽州ナルベシ

十二月戊辰渤海使己珍蒙等拜

朝上其王啓並方物其詞曰云、欽武啓云、

仍差若忽州都督昏要德等充使云、

天平十八年渤海人及鐵利惣一千一百餘人

慕化來朝安置出羽國給衣糧放還

守重按スルニ鐵利

ハ渤海ノ北ニアリテ即チ渤海ノ五府ノ一ナリ詳ニ辨疑ニ見エ併セ考ヘシ鉄利ノ人ノ我邦へ來リシヲ奇聞ト云ヘシ

廢帝天平寶字三年帝臨軒高麗使揚承慶等

貢方物癸曰高麗國王太欽茂言云、

是ヨリ前ニ

渤海ト称ス是ニ至高麗ト書ス十月辛亥迎

欽茂一册舊号ヲ称スルカ

藤原河清使判官内藏忌寸全成自渤海却廻

海中遭風漂着對馬渤海使輔国大將軍兼將

軍玄菟州刺史兼押衙官関国公高南申相随

来朝去是貳ナヲ玄菟州アリト見

多賀城碑在奥州宮城郡市川村多賀城云多古址廢帝天平宝字六年三建

賀城去蝦夷国界一百二十里去靺鞨国界三

千里正史ニ皆渤海高麗ト見エタル此碑ハ田号ヲ書テ靺鞨ト記三夕リ

續紀云光仁天皇寶龜二年六月壬午渤海

国使青綬大夫壹萬福等三百廿五人駕船千

七隻着出羽国賊地野代湊於常陸国安置供
給三年二月癸丑饗渤海蕃客於朝堂云、授
大使壹萬福從三位副使正四位下己卯賜渤
海王書云 天皇敬問高麗王云、昔高麗全
盛時其王高武祖宗爽也、今居瀛表親如兄弟
義如君臣帆海梯山朝貢相續逮乎季歲高氏
淪亡自爾以來音問寂絕爰泊神龜四年王之
先考龙金吾衛大將軍渤海郡王遣使來朝始
脩職貢先朝嘉其丹凝竈待殊優隆
四年六月丙辰能登国言渤海国使烏須弗等

乘船一艘來著部下云、戊午遣使宣告渤海
使曰渤海使取此道來朝者承前禁斷自今以
後宜依旧例從築紫道來朝

日本後紀云

嵯峨天皇弘仁六年正月甲午

渤海國使王孝廉等歸蕃賜書曰 天皇敬問

渤海王云、因差林東仁宛使分配兩船押送

東仁來歸不賫啓因言曰改啓作狀不遵旧例

云、今問孝廉等對云世移主易不知前事今

之上啓不敢違常然不遵舊例僭在水國不謝

之罪唯命是聽者

日本紀畧並扶桑畧記云

醍醐天皇延長八

年丹後国司言渤海使裴璆等九十三人著于
竹野郡即發存問使裴璆稱東丹国使存問使
問其所以璆等荅曰璆等本渤海人今降為東
丹之臣其語多稱契丹之罪惡存問使其狀奏
勅曰東丹国失礼義且使者無人臣之節璆奉
臣下使入上国宜重誥責以懲將來
本朝文粹云東丹国入朝使裴璆等解申進過
狀事 璆奉臣下使入朝上国怠狀 裴璆等
背其向偽爭善從惡不救先主於樽俎之間猥

謫新王於兵戈之際况乎奉陪臣之小使素上
国之恒規望振鷺而面慙詠相鼠而股戰不忠
不義向招罪過勅責之旨曾無避陳仍進返狀
裴璆等誠惶誠恐謹言

宇治拾遺物語云今ハむす胡ふといふ唐よりも
はるかり北とてて誠美分の地也ほき多るああらんと
て家臣は解るはくしあをいさかあり侍りたりなり
その宗臣が父を頼時とくみまの之を此をひだりてあ
る事ああらひをくむとくせめんと思はるる
なりといふ今よいあらすそあや屋ああら

多き海川の如きものなりとて、さうして、人とも、物を
如くか、好むまゝに、けりし、我か、好む、我れ、地より、けり
ん、う、い、う、う、地、あ、ん、けり、そ、う、い、う、う、あ、ま、ま、海、我
ん、う、う、う、も、あ、う、ぬ、こ、こ、あ、けり、い、ま、お、小、さ、う、い、う、人、の
う、ま、我、れ、あ、けり、い、う、う、う、う、う、い、ん、と、い、ひ、と、う、う、海、我
一、ま、ま、う、う、い、う、けり、い、う、う、う、い、う、あ、ま、ん、う、う、
頼、と、海、川の、次、席、を、海、に、席、さ、う、い、う、つ、あ、ま、席、を、
た、二十、人、も、けり、食、を、海、に、けり、と、けり、い、う、う、う、海、我、い
た、い、う、う、あ、ま、い、う、う、う、う、けり、う、う、う、う、い、う、う、
なり、あ、ま、い、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
なり、あ、ま、い、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

る大形川の隈をえ川あり其隈より一ふあ
と人やゝあらと見えあはとも人あも形一陸よの
よりぬきあやあるとみあきともあ一系あ
道ぬみあやあらとみあきともあ一系あ
あは川をわたりさあふ七日すく登よりりあき
あはあきやうなりあきあはあきあきあき
てねあきあきあきあきあきあきあきあき
あり二十日をわりのあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあき

ありては胡人とも繪はききある契しあるものありきや
 めく既もいあるるみ乗はきく打出あり 是道ハ
 いゆるものをもてんをりうちほき数あるはきき
 りり河原のなまあつありあちくちくもあつめと
 へはりあひく河なまりとうちく渡るなりと
 千騎中やあづきとてうふれがあつてその元き
 めるものなりとてへあつたりりかきのその試みるは
 めるものなりとてはり付くちく渡りあつてふなり
 ちとてうはききとてはりり世日中のあり
 けりよ一とてあつてはりり川を道はわれとて

しるる 瀬ありきとて人より遠く遠きこと
みよひおかしやうきことおもふゆゑに
そなたをばなれども世に人々
それよりつきとてうきなり 形骸のわ
ともをわくもあきあきとておもふこと
しるる 海よりききくばるる 形骸のわ
りきこれハ胡國とて日本のわたりにおく
ことおもふこととておもふこと

以上我邦ノ史書ニ見ヘシ 肅慎靺鞨渤海
ノ畧ヲ挙ク

尚書曰成王既伐東夷肅慎未賀王俾榮伯作
賄肅之命

家語曰孔子在陳惠公賓之於上館取有年集
陳侯之庭而死楛矢貫之石砮其長有咫惠
公使以年如孔子之館而問焉子曰年之來遠

矣此肅慎氏之矢也按本草石砮出肅慎

鐵施毒中人即死石生山中為貢荆州梁州皆

貢砮即此石也正字通砮與通李賀詩四

尺角弓青石砮註漢書挾婁國弓長四尺弩以

青石為砮因箭鐵用石故俗作砮口外晉書

廿史唐書金史明統志等載砮口外晉書

卜口各條ノ下ヲ見テ知ルベシル

後漢書曰挾婁肅慎國也出赤玉好貂

晉書曰肅慎氏一名挹婁在不咸山北去夫餘可六十日行東濱大海西接冠湯汗國北極弱水無文墨以言語為約有石砮檀弓三尺五寸矢長尺有咫

北史曰勿言國在高句麗北一曰靺鞨靺鞨色落自有長不相總一其國有大水闊三里餘名速末水其部落凡七種其一號粟末部其二伯咄部其三安車骨部其四拂涅部其五号室部其六黑水部其七白山部自拂涅以東矢皆石鏃即古肅慎氏也延興中遣乙力支朝獻

唐書曰黑水靺鞨居肅慎地亦曰挹婁元魏時
曰勿吉直京師東北六千里東瀕海西屬突厥
南高麗北室韋按同書二高麗東跨海距新羅
南亦跨海距百濟北靺鞨西突
厥南契丹北瀕海トアリ離為數十部酋各自治其著者曰
粟末部居最南抵大白山與高麗接依粟末水
以居稍東北曰汨咄部又次曰安居骨部益東
曰拂涅部居骨之西北曰黑水部粟末之東曰
白山部、問遠者三四百里近二百里白山本
臣高麗王師取平壤其衆多入唐汨咄安居骨
等皆奔散遺人並入渤海唯黑水完疆分十六

落以南北稱蓋其居最北方者也居無室廬負

山水坎地梁木其上覆以土如丘

然力千工フ

人ノ如_此居無書契其矢石鏃長二寸蓋格努遺法

武德五年渠長阿固郎始來貞觀二年乃臣附

以其地為燕州開元十年其酋倪屬利誓來朝

玄宗即拜渤海刺史置黑水府以部長為都督

刺史賜府都督姓李氏名曰猷誠以雲麾將軍

按=我天平年間渤海使來朝

領黑水經畧

雲麾將軍

己珍蒙アリ

使隸幽州都督初黑水西北又有思慕部蓋北

行得郡利部東北行得窟說部稍東南行得莫

曳皆部又有拂涅虞婁越喜鉢利等部其地南
距渤海北東際於海西抵室韋南北袤二千里
東西千里後渤海盛靺鞨皆役屬之不復與王
會矣 渤海本粟末靺鞨附高麗者姓大氏高
麗海率衆保挹婁之東牟山直營州東二千里
南北新羅以泥河為境東窮海西契丹築城郭
以居高麗逋殘稍歸之萬歲通天中有舍利乞
乞仲象者其子祚榮建国自号震國王遣使交
突厥地方五千里戶十餘萬頗知書契盡得扶
餘沃沮弁轉朝鮮海北諸國睿宗先天中遣使

拜祚榮為左驍衛大將軍渤海郡王以而總為
忽汗州都督自是始去靺鞨專稱渤海玄宗開
元七年祚榮死其子私謚為高王子武藝立斥
大王字東北諸夷畏臣之私改年曰仁安未幾
黑水靺鞨使者入朝帝以其地建黑水州置長
史臨總武藝死子欽茂立改年大興天寶末欽
茂徙上京直舊國三百里忽汗河之東寶應元
年詔以渤海為國欽茂王之大曆中以日本舞
女十一獻諸朝欽茂死七傳至仁考改年建興
仁秀頗能討伐海北諸部開大境字大和四年

仁秀死孫彝震立死弟虔是立死玄錫立咸通
貳朝獻初其王數遣諸生詣京師大學習識古
今制度至是遂為海東盛國地有五京十五府
六十二州以肅慎故地為上京曰龍泉府領龜
湖渤三州其南為中京曰顯德府領盧顯鉄湯
等無六州獬豸故地為東京曰龍原府亦曰柵
城府領虔監穆賀四州沃沮故地為南京曰南
海府領沃晴椒三州高麗故地為西京曰鴨綠
府領神桓豐正四州曰長嶺府領瑕河二州扶
餘故地為扶餘府常屯勁兵打契丹領扶仙二

一
州鄭頤府領鄭高二州挹婁故地為定理府領
定藩二州安辺府領安瓊二州率賓故地為率
賓府領華益建三州拂涅故地為東平府領伊
蒙沱黑比五州鉄利故地為鉄利府領廣汾蒲
海義歸六州越喜故地為懷遠府領遠越懷紀
富美福邪芝九州安達府領寧郡慕常四州人
郅銅凍三州為獨奏州凍州以其近凍江蓋三
謂粟末水也靉原東南瀕海日本道也南海新
羅道也鴨綠朝貢道也長領營州道也扶餘契
丹道也自營平距京師蓋八千里而遠

按唐書云高

麗本扶餘別種也地東跨海距新羅南亦跨海
距百濟西北遼水與營別接北靺鞨其君居
平懷城漢樂浪郡也去東京師六千里而羸瀕海之
濟扶餘別種也直京師高麗皆踰海乃至其東新
陽西迎越州南倭北高麗居漢樂浪地東距長
羅也○新羅升韓苗裔也
人東南日本西百濟城南瀕海北高麗遺人散葬
八高氏絶三其田城往海入新羅渤海靺鞨
突厥靺鞨ト云ヒ百濟ハ後ニ新羅渤海靺鞨
ノ為ニ抄録ス
コニセニ抄録ス

流鬼去京師萬五千里直黑水靺鞨東北少海
之北三面皆沮海其北莫知而寇人依岫散居
多沮澤有魚監之利地蚤寒多霜以本廣六寸
長七尺系其上以戕水遂走獸上多狗以皮裘

俗被髮粟似莠面小無蔬它穀勝兵萬人南與
莫曳鞞鞞鄰東南航海十五日行乃至負觀十
四年其王遣子可也余莫貂皮吏三詎來朝授
騎都尉遣之竜朔初有僭羅者其王儒李都羅
遣使入朝因居新羅武州南島上俗朴陋衣大
豕皮夏居草屋冬窟室地生五穀耕不知用牛
以鐵齒把土初附百府麟德中酋長來朝從帝
至大山後附新羅開元十一年又有達末婁達
姤二部首領朝貢達末婁自言北扶餘之裔高
麗滅其國遺人度那河因居之或曰他漏河東

北流入黑水達姑室韋種也在那河陰凍未河

之東西接黃頭室韋東北距達未婁云守重曰

大清一統志寧古塔ノ部ニハ引ノ大別ニシ

テハ謂サカリニ島カラフト地方及ヒカム

サス力地方ノ辺ナリ其風俗モハ畧合ス故

ニ今其全文ヲ載ス其達姑ハ疑クハ統志ノ故

ナ虎爾竜砂記畧ノ達呼里

金史曰靺鞨本号勿吉勿吉古肅慎地也元魏

貳勿吉有七部陪稱靺鞨七部並同粟末靺鞨保

東牟山後為渤海稱王傳十余世有文字礼乐

官府制度有五京十五府六十二州黑水靺鞨

居肅慎地東瀕海南接高麗嘗以兵十五萬衆

助高麗拒唐太宗敗於安市開元中來朝置黑
水府以部長為都督刺史置長史監之賜都督
姓李氏名獻誠領黑水經畧使五代昝契丹尽
取渤海地而黑水靺鞨其在南者号熟女真其
在北者号生女真及太祖敗遼兵於境上招諭
渤海人曰女真渤海本同一家盖其初皆勿吉
之七部也

五代史曰渤海本号靺鞨高麗之別種也唐高宗
滅高麗徙其人散處中國置安東都護府於平
壤以統治之武后昝契丹攻北邊高麗別種大

乞、仲象与未鞬乞四比羽走遼東分王高麗
故地武后遣將擊殺乞四比羽而乞、仲象亦
病死仲象子祚榮立因并有比羽之衆其衆四
十萬人據挹婁唐中宗旼置忽汗州以祚榮為
都督封渤海郡王其後世遂号渤海其貴族姓
大氏開平元年國王大諲譔遣使者來

續文獻通考曰遼太祖嘗親征渤海大諲譔叛
其扶餘誅其守將遂因忽汗攻破其城詔以兵
衛送諲譔及族屬以出改渤海國為東丹忽汗
城為天福冊皇太子倍為人皇王以居之漸送

大譚譔於皇都西城名譚譔曰烏魯古婁曰阿
里只改扶餘府為黃龍府世為遼重鎮守重曰
ヲ困トアレハ今ノ朝鮮地ヨリハ
北ニアリシコトシルヘシ
杜氏通典曰古之肅慎疑即魏貶挹婁自周初
貢楮天石罽至魏常道鄉公末東晉元帝初及
石季龍貶始皆獻之後魏以後曰勿吉國唐則
曰末靺焉

邊要分界圖考卷之五終

5

3
4
5

